

大方改良フリーウォーク開催

3月16日(土)、一般国道56号大方改良の開通に先立ち、住民を対象としたフリーウォークイベントが開催され、親子連れなど約200人が参加しました。

この道路は、道幅が狭く歩道が整備されていない現国道の課題を解消し、歩行者や自転車利用者の安全性向上や、被災後の迅速な救助・救援活動などを支援する目的で建設されました。

イベントでは、早咲地区から浜の宮地区までの約300mが開放され、路面に絵を描けるスペースや、パトカーや救急車の試乗コーナーなどが用意されました。

近所から家族で参加したという女性は、「広い道路が通って良かった。子どもたちが安心して学校に行けて、事故などが減ることを期待したい」と話しました。

24日(日)には本庁で開通式典が開催され、開通を祝うパレードなどが行われた後、一般車両の通行が開始されました。

※開通式典については次号掲載予定



路面に絵を描く児童ら

大方高校防災教育チャレンジプラン 優秀賞を受賞

2月23日(土)、東京大学地震研究所で、「2018年度防災教育チャレンジプラン最終報告会」があり、大方高校が防災教育優秀賞を受賞しました。

同プランは、内閣府(防災担当)などが、全国の地域や学校における防災教育の質の向上をめざし、新たな取組を行う団体を募集し、採択されると1年間の活動を支援するというものです。

同高は「高校生が作る・地区防災計画」と題し活動。地震発生時の避難所に指定されているため、避難所運営に関する防災ゲーム「HUG」を作成し、地域住民とゲームを通して話し合い、取り組んだことなどが評価されました。

3月14日(木)には、生徒6名が本庁を訪れ、受賞を大西勝也町長に報告しました。同高3年生の山戸星奈さんは、「HUGを作成したこと、防災についてよくわかったのが、今後はそれを発信していきたい」と話しました。



受賞を報告する生徒ら

第30回林間学校で小学生が植樹体験

幡東森林組合主催「第30回林間学校」が2月15日(金)、入野松原で開催され、南郷小学校6年生と入野小学校5年生の21名が植樹体験をしました。

この体験は、子どもたちに森林に触れてもらうことを目的に毎年開催されているもので、昨年は鈴地区の虎杖山で実施されましたが、近年のマツクイ虫による被害を受け、「子どもたちが自分の手でふるさとを再生していく意識を持つてもらえたら」という思いで入野松原での開催となりました。

今回植樹したのは約60cmのマツの苗木で、計250本。児童らは、スコップで穴を掘った場所に肥料と苗木を植え込み、土をかぶせる作業を繰り返し行いました。作業をした子どもたちは、「穴を掘るのが大変」、「家から近いからまた時々成長を見に来たい」などと感想を話しました。



苗木を植える児童

入野松原への松苗木植樹

入野松原保存会主催「平成30年度入野松原保存会入野松原への松苗木植樹事業」が2月24日(日)、入野松原で開催され、大方中学校元気会や関係者41人がマツの苗木を400本植樹しました。

参加した大方中学校元気会の山沖大洋さんは、「以前からマツクイ虫の被害があることは知っていたが、こんなにも大規模な被害になっていることは知らなかった。今回の活動は、黒潮町の美しい景色や防風・防砂林としての松原を守るための、とても意味のあることだと思う。また機会があれば参加したい」と感想を話しました。この事業は「緑の募金」を活用して実施しました。



作業を行う生徒ら